

4 児童の「できた！」「分かった！」の質を高める学習過程の一場面（1／4時）

教師と児童のやり取りの詳細

つかむ段階において、表の時計盤の表す時刻と裏の時計盤の表す時刻の2つの数の変わり方について調べていこうとする課題意識をもたせる場面。



表の表す時刻と裏の表す時刻が違う不思議な時計があります。例えば、今、表の時計の表している時刻は「12時」です。ひっくり返して裏にすると、「1時」になっています。



本当ですね。表の表す時刻と裏の表す時刻が違いますね。



では、だれか時計の針を動かし、問題を出してくれますか？



先生は「11時」だと思います。

正解です。

何時だろう？
全く分からぬ。



えっ。先生は分かるの？
答えを知っているの？



先生は分かりましたよ。

何時だろう？
全く分からぬ。



また分かったの？
なぜかな？



今度は「3時」です。

正解です。

次の問題を出します。表の時刻は「10時」です。裏の時刻は何時でしょうか？



先生は分かりましたよ。

先生は、なぜ分かるのですか？



・このようなやり取りを繰り返すことで、「なぜ、時計の時刻が分かるのか？」「何かきまりがあるのか？」といった気持ちをもたせることにつながります。また、このような言葉を児童から引き出し、調べてみたいという課題意識につなげるようにします。

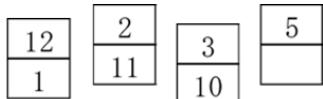
他の時刻でも分かりますか？



何かきまりがありますか？



今言ってくれたように時計の表の時刻と裏の時刻には何かきまりがありそうですね。
それでは、みんなで時計の表と裏の時刻にはどんな関係があるのかを調べていきましょう。



- ・時刻と時刻の対応を調べ、カードに書き出していくことで、数と数の関係に着目させることにもつながります。
- ・机間指導等をしながら調べたことを記したカードをどのように並べているのかを見ておくようにします。
- ・学び合う段階では、調べたことを発表させ、黒板に調べたことを記したカードをあえてランダムに提示し、配置していくことも方法の1つです。そうすることで、きれいに並べたい、順序よく並べたいという発想を引き出すことができます。その結果、表を作成することや、表を横に見て変化の特徴を見いだしていくことにつながります。

